

選手の想いを紹介

1年 世良 晃一郎（せら こういちろう）

私は、今回の大会に参加し学んだことは、先を取り常に狙うということです。今回の大会は補欠として参加させていただき、先輩方の試合を間近で見ることができました。その中で、1本を取るということは、先を取るということだと実感しました。だから、稽古の中では相手と合気になりつつ常に先を取るように意識して取り組みたいです。そして、次の大会では試合に起用されるようにこれからの稽古に取り組んでいきたいです。

2年 友澤 理（ともざわ さとし）

以前の神奈川県大会で迷惑をかけてしまったが、今回の大会では自分の役割をしっかりと果せることができたと思う。今回の結果になったのも後輩達や先輩方など周りの環境に恵まれており、剣道部全員が一生懸命稽古に励んだ成果だと考える。今年の大会は東都大会で終わってしまうが、来年の関東個人や、団体に向けてまだ時間はあるため、自分の課題を見つけて一から稽古に取り組んでいきたい。

3年 今上 雄太（いまじょう ゆうた）

今回の東都大会は個人的に収穫と課題の発見が多くありました。課題の部分では、チームの勝利に貢献するためにベストな選択がまだ甘いところが何度もあった。チームの優勝という結果に満足することなく今回見つかった収穫と課題を自分の中で整理し、見つめ直してこれからの少ない大会に向けて精進していきたいです。大会への参加に協力してくれた部長、監督、コーチ、応援、役員をしてくれた部員。全ての人に感謝しています。

3年 沖津 大介（おきつ だいすけ）

団体戦優勝という形で大会を終えることができた。コロナ禍において練習方法や環境が厳しい中、大会に選手として出場し優勝することができたことは非常に喜ばしいことである。また、個人的な勝率も4戦3勝1分という好成績を収めチームに貢献することができた。しかし、この結果に満足してはならないと思う。なぜ全勝することができなかったのかを課題として捉え、今後の稽古で改善していきたい。

3年 宮臺 凜明（みやだい りんめい）

今回の大会は一年ぶりの大会でしたが、好成績を残すことができました。今回はよりチーム一丸となって戦えたと感じました。前が勝てば後ろは無理せず楽になり、前が負けてもそれより後ろが取り返してくれるという形を作れて、リラックスしながら試合に臨むことができました。次の大会までまた長期間空いてしまうが、このチームの雰囲気を忘れずに今回のような好成績を残したいと思います。今後もし指導者鞭撻のほどよろしく願いいたします。

3年 蒲谷 朋世（かばや ともよ）

今回の試合は新型コロナウイルスの関係で今年、最初で最後の試合であり、何か月も稽古ができず、やっと練習が再開して出ることができた試合でした。久しぶりの試合でどうなるのか緊張もあり、少し楽しみだった部分もありましたが、結果として3位という成績を残せてよかったです。この結果はこれからの自信にもなりますし、もちろん反省点もたくさんあったので来年の試合に向けて精進していきたいです。

「剣道ができる環境を整えていただいた、大学はじめ指導者、保護者全ての関係者に感謝します。」 剣道部 部員一同

1年 棚本 陸（たなもと りく）

今回、大学に入学してから初めての試合で高校の試合とは違うと感じました。今の自分では、大学で勝っていける剣道はしていないと思いました。試合の組み立て方や技のバリエーションなどが自分に足りないと感じ、これからの稽古で意識していかなければならないと思いました。自分も今回の先輩方のように試合で優勝できるようにこれからも頑張りたいです。

2年 淀縄 樹生（よどなわ たつき）

今回の試合は久々の対外試合でとても緊張してしまいました。個人としてはチームにとって自分ができる役割を果たすことができたと思います。亜細亜大学との決勝戦では自分らしさを発揮して良い試合ができたので良かったです。今回の試合はチームのみなさんに助けられて優勝することができたので、これから今回の試合の反省をしてチームに貢献できるように稽古に励みたいと思います。

2年 井上 涼（いのうえ りょう）

久々の試合でしたが、緊張せず安定した試合をすることが出来ました。チームメイトが強いので、自由に試合に取り組みめました。コロナ禍の中で剣道ができていることに恵まれている環境にすることが改めて分かりました。得意である、引き技が打てないという状況でしたが、前の技で勝負する正々堂々とした剣道を貫けました。忙しい中で来てくださった望月部長をはじめ、関係者の方々に感謝してこれからも精進していきたいと思います。

3年 菊地 慶太（きくち けいた）

コロナの影響により1年振りの大会のため不安がありました。しかし、厳しい練習にも文句を言わず、向き合ってくれた部員に感謝をしたいと思います。結果を出す事が出来て安心しました。また、この環境の中練習ができる環境を整えてくれた部長、監督、コーチに感謝の気持ちとして全日本に出場をし、恩返ししたいです。優勝はしましたが、反省点も多い大会となりました。1年間この雰囲気継続していき各部員の意識が高くなれば、全日本出場は通過点になる様なチームができると思います。今回は素直に喜びまた1から部員全員で頑張ります。

3年 山田 雄志（やまだ たけし）

今回の大会は、私たちが剣道をできる環境について深く考え直す非常に良い機会となりました。大会に参加する以前に稽古を開始できたのも、多くの方の支えや協力があったのもであり、改めて私たちの恵まれた環境に感謝の気持ちを持って日頃の稽古や大会に参加することができました。その結果として剣道部全体で良い成績を残すことができ、少しながら恩返しのできたのではないかと感じました。今回の成績に満足することなくこれからも精進していきたいと思います。

3年 小山 ゆり（こやま ゆり）

新型コロナウイルス感染が続く中、久しぶりの大会に出場ができとても良い体験ができたと思います。私自身、良い結果は残すことができず悔いが残っているのですが、新たな課題ができ、同期はみな良い結果が残せているという中で新しい気持ちの変化も生まれました。まだまだ剣道ができていない大学はたくさんある中で神奈川大学は活動が許されているので、今の環境にしっかり感謝をし、今回の大会で得ることのできた良い部分や悪い部分を再確認し残り一年悔いが残らないように頑張りたいと改めて感じました。

編集後記

今回の東都大会は、「4年生のために」との特別の想いで開催されたという。本学からは、4年生女子が一人参加してくれた。昨年12月の仙台市で開催されたオープン大会では、怪我で参加できなかった選手だ。悔しさがあった。今回は、1年生2人もチームと一緒に団体戦を戦った。アドバイスしている彼女の背中があった。最後の大会に一人で挑戦した4年生。来春卒業後の就職先も決まっているという。これからの幸運を心から祈りたい。K